

# 2 課

10月14日

## 私たちに対する神の宣教 (その2)



### God's Mission to Us

罪によって引き起こされた「隔て」(イザ59:2)にもかかわらず、神はその宣教を通して、「万物を新しくする」(黙21:5)栄光の瞬間まで、人類との壊れた関係を修復し続けてくださるのです。

その間、神は、私たちが神の性質と目的を理解できるように、そして何よりも神との真の永続的な関係を持つことができるような方法で、ご自分を私たちにあらわすことを選ばれました。

2023.10.14



$\triangle ABC \equiv \triangle DEF$

$\triangle ABC = \triangle DEF$

$\triangle ABC \cong \triangle DEF$

私たちの使命——愛情深い証人として生き、主のまもない再臨に備えて、**三天使のメッセージの永遠の福音をすべての人に宣べ伝えるイエス・キリストの弟子をつくる**こと(マタイ28:18~20、使徒言行録1:8、黙示録14:6~12)。

教団10年構想(宣教領域)の基本思想 = 意識改革のための3つの柱となる概念 2020年  
この10年構想実現には信徒、牧師、教会の意識改革が必須である。意識改革は最も困難な改革と言われるが、この改革なしに私たちの教会の未来はない。

### 「信徒は弟子に」

- ◆信徒は自らのために神の祝福を祈り求めるが、**弟子は人々に祝福を分かち与えるために特に聖霊の注ぎを祈り求める**
- ◆信徒は教会形成において牧師を支持し応援するが、**弟子は牧師と共に献身し働き、牧師なしでも牧会、伝道を推進する**
- ◆信徒はキリストの福音を聞き信じるが、**弟子はキリストの福音を生き、伝え、新しいキリストの弟子を生む**

信徒一人ひとりが祈りや聖書のみ言葉を通してキリストとの個人的な愛の関係の中に毎日を生き、その愛を周りの人々に現す真のキリストの弟子となる。個人的交わりと影響力によって真のキリストの弟子を育てることのできるキリストの弟子としての人材を育成する。子教会を生み出す真のキリストの弟子集団による教会形成を目指し、集会場所としての建物を所有することを必ずしも目指さず、信徒リーダーによる小グループや家の教会から成る共同体としての教会を多数形成していく。

### 「牧師は使徒に」「教会は光と塩に」

*Mastery for Service*

*"Mastery for Service"*  
*Oct. 14. 1939*  
*C. J. L. Bates.*

KG スクールモットー



C. J. L. ベーツ第4代院長が、1912年4月、新設の高等学部長に就任した直後に提唱した。

要約(谷口)

知識習得の目的は、私たち自身の個人的な充実にあるのではなく、社会奉仕のためにあります。

私たちは広い意味で人類の僕(しもべ)になることを目指しています。

私たちは強くあること、知識のマスター、機会のマスター、特に自分自身のマスターになることを目指します。他人や状況で、または私たち自身の情熱にかかわらず、私たちは奴隷にはなりません。私たちの目的は人類の奉仕でなければなりません。

……私たちがマスターになろうとする目的は、自分個人を富ますことでなく、社会に奉仕することにあります。私たちは、広い意味で人類に奉仕する人になることを目指しているのです……。

マタイによる福音書28:16～20弟子たちを派遣する=【大宣教命令】

さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスが指示しておかれた山に登った。そして、イエスに会い、ひれ伏した。しかし、疑う者もいた。

イエスは、近寄って来て言われた。

「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは(全世界に出て)行って、すべての民(=黙示録14:6 地上に住む人々、あらゆる国民、種族、言葉の違う民、民族)をわたしの弟子にきなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。

⇒命令形=イエスの御命令119

わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

イエスは弟子たちに、外(→全世界)に出て弟子をつくり、信仰をもって教え、交わりに導くように命じられた。心からイエス・キリストに従う者はみな、全世界を対象に弟子づくりに従事しなければならない。

	タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 3 / 聖句等の総数 33250 ]
S	マタイによる福音書	28:19 だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にきなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、
S	マタイによる福音書	28:20 あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」
S	ペトロの手紙 I	1:2 あなたがたは、父である神があらかじめ立てられた御計画に基づいて、“霊”によって聖なる者とされ、イエス・キリストに従い、また、その血を注ぎかけていただくために選ばれたのです。恵みと平和が、あなたがたにますます豊かに与えられるように。

★黙示録14:6 わたしはまた、別の天使が空高く飛ぶのを見た。この天使は、地上に住む人々、あらゆる国民、種族、言葉の違う民、民族に告げ知らせるために、**永遠の福音**を携えて来て、  
★マルコ16:20 結び二、**永遠の救いに関する聖なる朽ちることのない福音**を広められた。

目的は、自らイエス・キリストの再臨に備え、ほかの人を準備させることです。

「裁きの使命の宣布は、キリストの再臨が近いことを知らせている。そしてこの宣布は、永遠の福音と呼ばれている。このようにしてキリスト再臨のことを説教して、その切迫を告げることが福音使命の本質的部分であることが示されている」(『希望への光』1273ページ、『キリストの実物教訓』第18章)。

「キリストの教会の使命は、滅びゆく罪人を救うことである。神の愛を人々に知らせ、その愛の力によって人々をキリストのもとに導くことなのである」(『教会への証』第3巻381ページ、英文)。

### 使徒言行録1:8 【イエス、天に上げられる】

あなたがたの上に**聖霊**が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、**エルサレム**ばかりでなく、**ユダヤとサマリアの全土**で、また、**地の果て**に至るまで、わたしの証人となる。

イエスが「あなたがたは……わたしの証人となる」（使徒1:8）と言われたとき、彼の頭の中には三つの地理的領域がありました。

**領域1**：「エルサレム(で) ……わたしの証人となる」。この時、弟子たちはエルサレムのすぐ近くにいました。つまりイエスは、基本的に「神とのあなたの**身近な(できる)ところから始める**」と言われたのです。宣教は家庭で、家族、隣人、友人に対して始まります。これこそが基本的な宣教の場です。

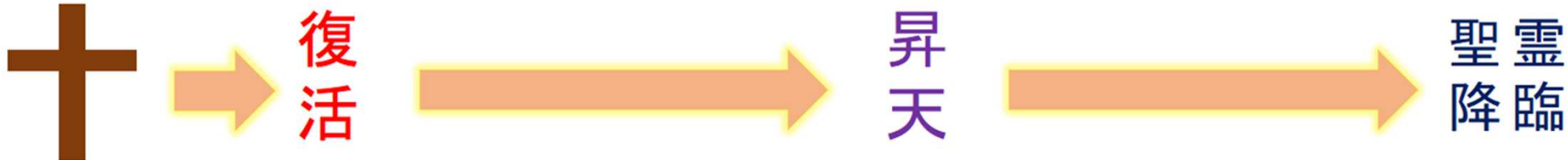
**領域2**：彼は続けます。「ユダヤとサマリアの全土で」。私たちの宣教は、ある意味、近くにいながら、同時に遠く離れている人々も含まれます。このグループには、私たちと同じ言語を話すかもしれませんが、似たような文化を持つものの、私たちと同じ現実を共有していない人々が含まれます。これが私たちのさらなる宣教の場です。

**領域3**：さらにキリストは、「地の果てに至るまで」と言っておられます。神の宣教使命は、私たちがあらゆる場所、国民、民族に手を差し伸べるよう求めています。これは私たちの究極の宣教の場です。





使徒言行録1:8 【イエス、天に上げられる】  
 あなたがたの上に**聖霊が降ると**、あなたがたは力を受ける。そして、**エルサレム**ばかりでなく、**ユダヤとサマリアの全土**で、また、**地の果て**に至るまで、わたしの証人となる。



1	2	3日目	2日目	3日目	...	39日目	40日目	41日目	42日目	...	49日目	50日目	
金	土	日	月	火	...	水	木	金	土	...	土	日	
三日目に復活(マタイ16:21他)			復活から四十日にわたって(使徒1:3)					復活から50日後に集まって祈っていた弟子たちの上に、聖霊が降った(使徒2:1~4) →聖霊降臨日(春の収穫感謝祭の「五旬祭(ペンテコステ)」の日)					



世に福音を伝えることによって、主の再臨を早めることが、われわれの力のできる。われわれは神の日の到来を待っているだけでなく、これを早めるのである。

キリストの教会が命じられた働きを主がお定めになった通りにしていたら、全世界に対する警告はすでに終わって、主イエスは力と大いなる栄光をもってこの地上においでになっていたのである。

各時代の希望 第69章 オリーブ山上で(希望への光P.1003~1008)

神が宣教の神であるという主題は、聖書全体を貫いています。

御子はこの世を創造し（ヨハ1：3）、「時が満ちると」（ガラ4：4）、神は御子を世に遣わすことによって愛を示されました（ヨハ3：16、17）。御子は来られ、十字架上で死に、死に勝利されました。そして、父なる神から遣わされた御霊が来られ（同14：26、16：7）、この世の誤りを明らかにし（同16：8～11）、今日、神の民を力づけ、宣教に送り出すことによって、父なる神と御子の宣教を継続しておられます（同14：26、16：13、14）。